

		0ヶ月	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
3	ボスミン、エピネフリン注0.1%シリンジ・昇圧剤・心停止時補助薬				81.8	44.8
4	リドカイン静注用2%シリンジ・抗不整脈剤				75.1	38.6
5	サリベックス注0.1%・Ca拮抗剤				71.3	43.4
6	ニトロール・冠血管拡張薬				83.3	48.6
7	マスキュラックス・筋弛緩薬				78.6	49.7
8	硫酸アトロピン・副交感神経抑制薬				73.1	43.4
9	キシロカインには抗不整脈剤と局所麻酔剤があることを知っている				80.0	50.3
10	プレドバ、ドブポン、ノルアドリナリン、ボスミンは滴下速度を厳守しなければ危険だと知っている				88.4	63.1
11	プレドバ、ドブポン、ノルアドリナリンは患者の体重、投与速度により $1\mu\text{g}/\text{min}/\text{kg}=1\gamma$ という単位で投与量が考えられていることを知っている				56.5	27.9
12	サリベックス注0.1%、ヘルベッサーは滴下速度を厳守しなければ危険だと知っている				66.0	38.9
13	ネオフィリンの急速静注の危険性を知っている				65.5	35.9
14	KCL注20mEqキットやアスパラカリウム注10mEqは原則的には原液で使わないことを知っている				85.6	61.0
15	KCL注20mEqキットやアスパラカリウム注10mEqの静注は禁忌で、点滴で投与しなければならない事を知っている				81.6	59.9
16	マスキュラックス・プロポフォール注・ディプリパン・ドルミカム・ロヒプノールなど、投与時、呼吸停止に備え、挿管チューブの準備と加圧バックを必ず準備することを知っている				68.0	39.5
<b>E. 麻薬・向精神薬の取り扱いに関する知識がある</b>						
1	麻薬・向精神薬は移動困難な保管庫に施錠して保管、管理しなければいけない理由を知っている					90.3
2	麻薬・向精神薬の空アンプルを捨ててはいけない事を知っている					95.9
3	麻薬・向精神薬には麻薬・向精神薬取締法が適応されていることを知っている					91.7
4	麻薬・向精神薬を使用するときには必ずダブルチェックが必要であることを知っている					98.0
5	ホリゾンの急速静注は呼吸抑制の危険性があると知っている				77.1	45.1
6	ペンタジンに15mgとソセゴン30mgは、同じ薬で量が違うだけであると知っている。				55.2	25.2
7	麻薬・向精神薬投与直後の意識状態・呼吸状態が観察できる				76.9	46.9
<b>F. 抗がん剤の取り扱いに関する知識がある</b>						
1	抗がん剤を扱うときには看護師自身も身体の防御を行う必要があることを知っている				80.8	71.2
2	抗がん剤の投与量の誤りは非常に危険だと知っている				92.5	79.5
3	抗がん剤の点滴漏れは組織壊死の危険性があると知っている					81.5
4	抗がん剤注入時の静脈炎の危険性について理解している				82.2	58.9
5	抗がん剤の液体が身体に付着したときの処理の仕方を知っている				58.0	37.0

H19年度1年後に「3」の割合  
(左隣は「3+2」の割合)